HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第23号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合
Issue Date	2011-12-01
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73508
Type	periodical
Note	事務局: 北海道大学附属図書館; http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
File Information	DRFmonthly_23.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

月刊 DRF
Digital Repository Federation Monthly

第23号
No. 23 December, 2011

【特集1】第8回デジタルリポジトリ連合　全国ワークショップ：DRF8レポート
【特集2】第9回ベルリン宣言記念オープンアクセス会議（Berlin9）
＜トピック＞第3回機関リポジトリ新任担当者研修, SPARC Japanセミナー2011レポート

【特集1】第8回デジタルリポジトリ連合全国ワークショップ：DRF8
「学術へのオープンアクセスは大学図書館に何を免じ何を任ずるのか」

開会挨拶：
新田孝彦DRF運営委員長

11月10日（木）第13回図書館総合展（会場：パシフィコ横浜展示ホール）においてDRF全国ワークショップを開催しました。強力な裏番組揃いで集客が危惧されましたが、のべ104名が参加。全国のリポジトリへの熱い想いが結集されました！

全体プログラム
司会・進行：山本和雄（DRF事務局, 北海道大学）
10:30～　開会挨拶
10:40～　第1部　事例報告
12:10～　ランチミーティング
13:00～　第2部　講演
15:30～　第3部　パネルディスカッション

第1部　8×8=∞　～Green OAとリポジトリの今～

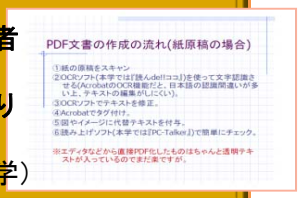
DRF参加機関を代表し、8人が8分ずつ、自機関のリポジトリについて事例報告を行いました。試したいヒント満載、リポジトリの可能性は∞＝無限大です。

●コメンテーター：関川雅彦（DRF運営委員、筑波大学）尾崎文代（DRFアドバイザー 、広島大学）
鈴木正紀（DRF企画WG 、文教大学）●司会：上田大輔（DRF企画WG、広島大学）

①カウンターで著作権許諾をGET!
田山恭司
（聖学院大学）

②「GINMU」では県内医療機関の共同リポジトリを構築します！
大瀬戸貴己
（奈良県立医科大学）

③視覚障害者に配慮したリポジトリ作り
高橋雅一
（筑波技術大学）



④学内連携で効果的なコンテンツ収集
若生政江
（城西大学）

成果論文はBarrelで公開～♪と

⑤先生、科研計画調書で謳ってください。
高橋欣瑛
（小樽商科大学）

⑥HERMES-IRの特徴は他システムとの連携。
尾城友視（一橋大学）

⑦TeaPotでE-bookサービスはじめます！
廣田未来
（お茶の水女子大学）

プレスリリース論文、OAウィーク…
⑧ちょっと始めたら、色々やりたくなってきました。
近藤喜和
（奈良先端科学技術大学院大学）

初めての試み、第1部報告者を囲んでのランチミーティング。4テーブルに分かれ、サンドイッチをいただきながら和やかで活発な情報交換が行われました。

第2部　JaLC×JUSTICE×DRF　～日本の最前線～

第2部はJaLCとJUSTICE、そしてDRFについて、講演と質疑応答が行われました。

学術論文、特許、書籍、論文に付随する図表などの情報に国際識別子DOIを付与する、オールジャパンのためのリンクセンターです。H24年1月試行運用開始・H24年度初頭に本格版の運用開始を予定しています。

リンクでつなげよう！国内情報サービス：ジャパンリンクセンターの開発

加藤斉史（JST副調査役）

参加費用は無料？システム改修は？検討に必要な情報の早期公開をお願いしたのじゃったな。引き続き注目じゃ。

大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）は，将来的には電子リソースの総合的なユーティリティを目指しています。当面の戦略は、現在のビッグディールが継続できるような努力を続け、その上で新モデルやOAジャーナルの動向に対処するしかないと考えています。

JUSTICEの活動報告 ～出版社交渉を中心に～

尾城孝一（JUSTICE事務局長）

「だーふ」とは？・みんなで・いろいろな知恵を出し合って・色々なことをやってみて・IRとOAをもっと研究者の身近なものにしたいと・協力をしている人たちの集まりです！

デジタルリポジトリ連合 ～知られざる謎の組織の実態に迫る～

上田大輔（DRF企画WG主査）

緑はYes、黄色はNo。
第2・3部では会場も色紙を掲げて意見を表明しました。

●進行：鈴木雅子（DRF企画WG、旭川医科大学）
●アシスタント：杉田茂樹（DRF企画WG、小樽商科大学）

第3部　Gold×Green　～近未来の学術情報流通～

商業出版社のOA参入、「OAメガジャーナル」と呼ばれる従来の学術雑誌とは異質のメディアの出現。電子学術情報流通環境の急速な展開の下で、学術コミュニケーションの姿はどう変わり、大学図書館はそこにどのような役割を担うのでしょうか?第3部では、「EJ購読コンソーシアムによる出版社との交渉努力は、結果的にOAの進捗の阻害要因となっているのでは？」「機関リポジトリは、セルフアーカイビングの場としてではなく、ゴールドOAの媒体として機能し得るか？」など事前に用意された9つの疑問に、パネリストがYES/NOで答えました。

Q.「ゴールド路線のOAが進捗する中、それでも機関リポジトリをがんばる価値があるのか？」
パネリスト＋会場のファイナルアンサーは…もちろん全員YES！

●コーディネーター：関川雅彦（DRF運営委員、筑波大学）
●アシスタント：鈴木雅子（DRF企画WG、旭川医科大学）
●パネリスト：尾城孝一（DRFアドバイザー、大学図書館コンソーシアム連合）
石井奈都（BioMed Central）
土屋俊（DRFアドバイザー、大学評価・学位授与機構）
山本和雄（DRF事務局、北海道大学）
●話題提供：杉田茂樹（DRF企画WG、小樽商科大学）

番外編　懇親会

ワークショップの後は楽しい懇親会。美しい夜景そっちのけで、ここでも機関リポジトリの話題に花が咲きました。途中のクイズ大会は月刊DRFを読んでいれば簡単な問題のはずでしたが…

クイズ大会優勝は委員長チーム

●発表資料等はDRFウェブサイトをご覧ください。
http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRF8

【特集2】Berlin9 参加レポート

去る11月9日、10日の両日にわたり、ベルリン会議（第9回）がワシントン近郊のベセスダで開催されました（※1）。金沢大学は、DRFによるコミュニティ活動の連携機関として国際連携活動を分担しており、その一環として同会議のポスターセッションに応募し、無事通過したので参加してきました（※2）。参加者は、金沢大学の内島、藤原の2名でした。

会議に先立ち、プレコンフェランスが、SPARCが入っているARLのビルのすぐ近くのジョンズホプキンス大学とナショナルアカデミー（これはやや離れている）で8日に開催されました。テーマは、OA出版、OA政策、学術環境におけるOAの3つでした。COARのノーバート・ロッソー氏（ゲッチンゲン州立・大学図書館長）や、アルマ・スワン氏、ハーバードのシーバー教授、PLoSのビンフィールド氏、リェージュ大学のバーナード・レンティエ学長など日本でもよく知られている方々が、こじんまりとした会場でプレゼンをされました。

プレコンフェランス

HHMI玄関（本会議場）

本セッション（本会議場）

本会議は、NIHのすぐ近くにあるハワードヒューズ医学研究所（HHMI）で開催されました。緑豊富で広大な敷地にある施設で、2003年にOA宣言の一つであるベセスダ宣言が行われたところとして有名です。初日は、同研究所所長の挨拶の後、世界の政策環境、OAを通した研究の変容、学術とビジネスのための革新的機会の創造をテーマに10の講演が行われました。ノーベル医学賞受賞者であるハロルド・バーマス氏による歴史的観点からのOAのおさらいや、ECの研究担当のディレクターによるヨーロッパ全体の研究力強化の施策を俯瞰する講演とともに、OAによる研究の公開をビジネスに結びつける視点が幾つかの講演で明確であったことが印象に残りました。また、ベセスダ宣言の地らしく、OAコンテンツの2次利用（BOAIには無い論点）が次の大きな課題であることも触れられていました。

2日目は、OAの人文科学研究への影響、オープン教育、公衆との相互交流などをテーマに、9つの講演とディスカッションが行われました。特に印象に残ったのは、アリゾナ州立大学の学長がOAに適した大学組織が必要であると語ったこと、またアメリカ教育省の上級アドバイザーのオープン教材に関する講演があり、やや政治的な雰囲気も漂っていたことです。ここでもリポジトリ担当者による具体的な話よりは、政策や大きなプロジェクト単位の話題が多く、OAの政策フォローアップを主目的とするベルリン会議の特徴を表しているように思われました。会場の参加者は、直接接した範囲では、助成団体の人が多いように感じました。最後に、SPARCのヘザー・ジョセフ女史のまとめ（OAによるビジネスと研究振興の2つの観点）と次回開催地の南アフリカから挨拶がありました。

最後にこの場を借りて、色々とご配慮を頂いたNII及び安達先生にお礼申し上げます。

内島秀樹（DRF運営委員，金沢大学）

※1　http://www.berlin9.org/　※2　http://www.berlin9.org/bm~doc/berlin9_poster_kanazawa_university.pdf

〈トピック1〉平成23年度第3回　機関リポジトリ新任担当者研修

DRF主催/NII共催（NII会場第2回）

11月21～22日に、国立情報学研究所12階会議室にて、平成23年度第3回機関リポジトリ新任担当者研修を開催しました。

9月の第1回から注目を集めた新任担当者研修。第2回は募集開始直後から応募が殺到！ 定員の関係からやむなく即日募集終了としましたが、急遽第3回の追加開催を決定したのでした。

第3回も、満員御礼！特に今回は、未構築機関からの参加者が多く、みんな「初めてのリポジトリ」に対する不安を抱えながらの受講だったのではないでしょうか。今回の研修で、その不安が少しでも、リポジトリに取り組む楽しさや喜びに変わったとしたら、今回講師をつとめた者一同、こんなに嬉しいことはありません。

なにはともあれ、皆様、お疲れ様でした！

※ 講義内容は第1回と同じです。月刊DRF21号をご覧ください。

2011年のSPARC Japanセミナー、待望の第1回目がOAW中の10月28日(金)に開催されました。物理学、生物学、日本学といった異なる分野の専門家である三人の先生方が、OAに対する三様の考えを語りました。
(写真提供:NII)

「素粒子物理学系ジャーナルにおけるオープンアクセス化の試み」
瀧川　仁(東京大学物性研究所　新物質科学研究部門　教授)

瀧川仁先生

瀧川先生は、 SCOAP³とPTEPというOA化促進の2つの大きな動きについてお話しされました。SCOAP³とは高エネルギー物理学(HEP)分野の全体をOA化する試みで、月刊DRF21号でも報告されたように、2011年8月に日本も参加に合意しました。運営資金、入札の公平さ、ジャーナルの新規参入への保障等課題も多いのですが、研究者の約9割がOA誌の実現を望むにも関わらず、研究費不足やOA誌の質が不十分であるというHEP分野の現状を踏まえた「壮大な実験」として、2013年からの運用を目指しています。PTEPとは、日本物理学会が、Progress of Theoretical Physics (PTP) に、"Experimental" を加えてOA誌として刊行するものです。2013年から、理論に加えて実験も含めた全分野の論文を出版するとしています。SCOAP³と開始時期が重なる可能性にも配慮しつつ、計画を進めています。

「研究者によるオープンアクセス雑誌のたちあげを！」
斎藤　成也(国立遺伝学研究所　集団遺伝研究部門　教授)

斎藤先生は、研究者自らがOA誌を立ち上げ、出版すべきということを強く主張されていました。斎藤先生自身、OAこそが自由な研究の第一歩であるという信念のもと、2010年からOA誌の立ち上げを目指して活動をなさっています。進化学研究会が以前発行していたジャーナルを「Shinka」という名前でOAとして再生化することが目標で、具体的な方法としては、ジャーナル立ち上げ後当面は投稿料無料(将来的には著者実費負担)とし、サーバは民間のものを使用、スタッフはボランティアでの活動としているそうです。(現在の人数はご自身含めて編集委員7名)。このように、研究者自らが安価で掲載できるOA誌をたちあげるべきだとの強い信念を持ち、精力的に活動なさっています。

斎藤成也先生

友常勉先生

「国際日本研究と学術デジタルコミュニケーションの現在」
友常　勉(東京外国語大学　国際日本研究センター　専任講師)

友常先生は、日本学(人文社会科学系研究)情報資源の電子化の遅れが海外の日本学研究者の減少の一因となり、国際日本研究の停滞を招いていることから、知のデータベース化促進のために構想されたe-Japanologyについて発表されました。東京外国語大学を中心として活動するe-Japanologyでは、海外の日本学研究者向けコンテンツを作成、それらを素材としてクラウド技術を活用した情報基盤を構築し、国内外の日本語学習者を結びつけようとしています。また、既刊資料に依存して閉鎖的なジャンルに固執するのではなく、一次資料、特に特殊資料やアーカイブ資料等新しい資料へのアクセスを促進するような、良質なデジタル・アーカイブ構築の必要性、アーカイブとe-Japanologyと結びつけるレイヤー形成の重要性についても言及されました。

→注目！　DRFからワークショップの講師を派遣します！派遣希望のお申込みは12/16(金)まで。
詳細はこちらをチェック！　http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?Dispatch

次号予告
【特集1】2012年の抱負
【特集2】2011年十大ニュースとキーワード
〈トピック〉平成23年度DRF講師派遣事業レポート